第11課　偽教師

【暗唱聖句】

「その人たちに自由を与えると約束しながら、自分自身は滅亡の奴隷です。人は、自分を打ち負かした者に服従するものです」第二ペテロ2:19

【今週のテーマ】

初代教会はローマ帝国による迫害だけでなく、異端の教えを持ち込む偽教師にも対処しなければなりませんでした。ペテロはこれらに対しどのように警告し、対処していたのでしょうか。またそれは今日の教会においてどんな教訓を得ることができるのかを学びます。

【日曜日　偽預言者、偽教師】

初代教会は今日の教会に比べて理想的で教会は平和と調和があったと考えたいところですが、殻ずしもそうではなかったことがペテロの手紙を読むとわかってきます。教会内の多くの問題は偽の教えが持ち込まれることによって生じました。教会は外部からの迫害に加えて間違った教えの侵入という2重の問題にも対処しなければなりませんでした。

「かつて、民の中に偽預言者がいました。同じように、あなたがたの中にも偽教師が現れるにちがいありません。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを贖ってくださった主を拒否しました。自分の身に速やかな滅びを招いており、しかも、多くの人が彼らのみだらな楽しみを見倣っています。彼らのために真理の道はそしられるのです。彼らは欲が深く、うそ偽りであなたがたを食い物にします。このような者たちに対する裁きは、昔から怠りなくなされていて、彼らの滅びも滞ることはありません」第二ペテロ2:1

ペテロが指摘していることをまとめると、

①　かつて民の中に偽預言者がいたように教会の中に偽教師が現れるだろうということ

②　偽教師は滅びをもたらす異端をひそかに持ち込むこと

③　偽教師は主の贖いを拒否すること

④　彼らは自分自身に速やかな滅びを招いていること

⑤　多くの人が彼らのみだらな楽しみを見習っていること

⑥　彼らのせいで真理の道がそしられること

⑦　彼らの特徴は欲深く、うそ偽りに満ち、人を食い物にすること

ペテロはこのような異端の教えが教会内に侵入してくることに対して強く警告し、注意を促していますが、これは今日も同様です。

【月曜日　キリストにある自由】

「彼らは、無意味な大言壮語をします。また、迷いの生活からやっと抜け出て来た人たちを、肉の欲やみだらな楽しみで誘惑するのです。その人たちに自由を与えると約束しながら、自分自身は滅亡の奴隷です。人は、自分を打ち負かした者に服従するものです」第二ペテロ2:18～19

ペテロはここで、自由と奴隷という言葉を使って偽教師を警告しています。確かに、キリストの教えは人々を自由に導くものです。イエス様は聖霊の働きについて次のように言われました。

「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」ヨハネ8:32

神様を知る前は、人は自由に生きているようでありながら、実はこの世のものに縛られ、奴隷のような状態だったと聖書は言います。しかし、神様を知り、真理に目が開かれるとこの世の束縛から解き放たれ、今まで経験したこともないような自由を経験するようになります。初代教会でも、イエス様を救い主と受け入れていくなら、この自由に預かることができると教えられていたようです。

　ところが、そのように教えている指導者たちが、自由からすっかり離れ、滅亡の奴隷になっているとペテロは言うのです。なぜでしょうか。それは罪に打ち負かされているからだと続けます。「人は自分を打ち負かした者に服従するもので」あり、それはまさに奴隷状態なのです。

偽教師たちは表では、あるいや誠実で良い人たちだったかもしれません。しかし、隠れたところでは、罪に打ち勝つことができずにいたわけです。自分たちが教えている自由を、本当に知ってはいない、あるいはかつては知っていたが、今はそこから遠く離れ、元の生活に戻ってしまっているのです。このような状態になると、自分たちの教えに自己矛盾が生じてくるので、間違った教えを巧みに混ぜていくようになります。異端が始まる一つのきっかけです。

　ペテロの警告はこのような偽教師に気を付けるのと同時に、私達自身が偽教師のような生活に陥らないように注意することも含まれているように思います。

「イエスはお答えになった。「はっきり言っておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。8:35 奴隷は家にいつまでもいるわけにはいかないが、子はいつまでもいる。8:36 だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる」ヨハネ8:34～36

本当の自由を与えてくださるイエス様はいつも共にいてくださる方です。偽教師たちのように滅亡の奴隷状態にならないためには、あるいはそこから抜け出すには、イエス様の助けが必要です。イエス様はいつでもわたしたとともにいて自由にしてくださいます。滅亡の奴隷状態に陥りそうになった時は、必死にイエス様に助けを祈り求めましょう。

【火曜日　犬は自分の吐いた物に戻る】

「義の道を知っていながら、自分たちに伝えられた聖なる掟から離れ去るよりは、義の道を知らなかった方が、彼らのためによかったであろうに。ことわざに、「犬は、自分の吐いた物のところへ戻って来る」また、「豚は、体を洗って、また、泥の中を転げ回る」と言われているとおりのことが彼らの身に起こっているのです」第二ペテロ2:21，22

ペテロは偽教師たちによって以前の罪の生活に戻ってしまった者たちのことを心配しています。ペテロは古い生き方に戻ってしまうのなら「義の道を知らなかった方が良かった」とさえ言っています。まるでそれは「犬は、自分の吐いた物のところへ戻って来る」ということわざのように、愚かなことだとペテロは言います。なぜこのような辛辣なことをペテロが言うのかというと、次のような理由が書かれてあります。

「わたしたちの主、救い主イエス・キリストを深く知って世の汚れから逃れても、それに再び巻き込まれて打ち負かされるなら、そのような者たちの後の状態は、前よりずっと悪くなります」第二ペテロ2:20

イエス様のことを深く知った後に再びこの世の生活に戻ってしまうと、イエス様を知る前よりももっと悪くなってしまう、だから知らなかったほうが良かったと言うわけです。このことについてはイエス様ご自身も次のように語られています。

「汚れた霊は、人から出て行くと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが、見つからない。それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。戻ってみると、空き家になっており、掃除をして、整えられていた。そこで、出かけて行き、自分よりも悪いほかの七つの霊を一緒に連れて来て、中に入り込んで、住み着く。そうなると、その人の後の状態は前よりも悪くなる。この悪い時代の者たちもそのようになろう。」マタイ12：43～45

悪霊は現実に存在しており、人の中に住み着きます。このことにあまりにも無頓着である場合が少なくありません。イエス様を救い主として信じたとき、その人のうちにいた汚れた霊は一旦出ていきます。だからとても解放感があり、救われた喜びも得ることができます。しかしその後、聖い霊によって心を支配していただくように努めていかなければなりません。なぜなら、汚れた霊は再び舞い戻ってくるからです。

統計上バプテスマを受けて1年以内に教会に来なくなる人が一番多いのはここに理由があることを知る必要があります。汚れた霊が戻ってくると自分よりも悪い7つの霊を一緒に引き連れてくるために、以前の状態よりももっと悪くなってしまいます。

新しく神の子として生まれたものは本人が想像もしていないような霊の攻撃を受けます。だから、教会はバプテスマを受けたばかりの人のために祈らなければならないのです。そして一旦教会から離れてしまったなら、再び教会に連れ戻すには大きな霊の戦いとなることを知る必要があります。

【水曜日　ペトロとユダ】

「主は、信仰のあつい人を試練から救い出す一方、正しくない者たちを罰し、裁きの日まで閉じ込めておくべきだと考えておられます」第二ペテロ2:9

「一方、自分の領分を守らないで、その住まいを見捨ててしまった天使たちを、大いなる日の裁きのために、永遠の鎖で縛り、暗闇の中に閉じ込められました」ユダ6

ペテロ第二の手紙の2章から3章7節にかけて書かれてある内容と、ユダの手紙の内容がほぼ同様です。特に神様は悪いものたちの（それが人間であろうと堕天使であろうと）運命を支配しておられるということについて書かれてあります。

かつて神様が直接介入された罪に対する裁きがありました。 ノアの時代の大洪水やソドムとゴモラの滅亡、さらにはエジプトから奇跡的に大脱出を果たしたにも関わらず不信仰に陥りカナンに入れなかった者たちなどです。これらの出来事について、二つの手紙は実例として挙げて警告しています。

このような破壊的な裁きをもたらしたものとは一体何だったでしょうか。目を覆いたくなるような暴力行為や残虐行為がつづられているわけではありません。聖書が教えるのは民の不信仰です。つまり、神様をあがめ、神様の御心を生きようとはせず、自分たちの思い思いに生きていき、やがて神様から離れてしまった結果が、裁きをもたらしたのです。これは他人事ではなく、今も全く同じです。だから、教会には真の悔い改めと改革が必要なのです。

【木曜日　旧約聖書のさらなる教訓】

「また、神はソドムとゴモラの町を灰にし、滅ぼし尽くして罰し、それから後の不信心な者たちへの見せしめとなさいました。しかし神は、不道徳な者たちのみだらな言動によって悩まされていた正しい人ロトを、助け出されました」第二ペテロ2:6、7

ペテロはソドムとゴモラの町が滅ぼされたという創世記13章に記述されている物語から、二つのことを語っています。一つは神様は不信心な者たちを滅ぼされるということ、二つ目は正しい者たちを救い出されるということです。これは否定しようのない事実としてはっきりと聖書に描かれていることです。ここを薄めて、読むわけにはいきません。次にペテロは滅んで行った人たちの特徴について語ります。

「特に、汚れた情欲の赴くままに肉に従って歩み、権威を侮る者たちを、そのように扱われるのです。彼らは、厚かましく、わがままで、栄光ある者たちをそしってはばかりません。天使たちは、力も権能もはるかにまさっているにもかかわらず、主の御前で彼らをそしったり訴え出たりはしません」第二ペテロ2:10，11

彼らの特徴は、①汚れた情欲の赴くままに肉に従って歩んでいたこと、②権威をあなどっていたこと、③厚かましく、わがままであること、④栄光ある者たち（天使）をそしってはばからなかったことです。

＊天使は人間を神様の御前でそしったりしません。人間はなぜ他人をそしり、あげくには神様までそしるのと比べると何という違いでしょうか。

次にペテロは救われた正しいものたちの特徴について語ります。

「なぜなら、この正しい人は、彼らの中で生活していたとき、毎日よこしまな行為を見聞きして正しい心を痛めていたからです。主は、信仰のあつい人を試練から救い出す一方、正しくない者たちを罰し、裁きの日まで閉じ込めておくべきだと考えておられます」第二ペテロ2:8，9

彼らは「毎日よこしまな行為を見聞きして正しい心を痛めていた」ことです。悪を見聞きすると、正しい人の心は痛むのです。彼らは、世の中に流されて同じ行為に陥ることはありませんでした。

誘惑に負けて、正しい道から大きくそれていく者たちを、金の誘惑に負けてイスラエルの人々を呪うという常軌を逸したバラムに例えています。バラムは結局、自分が乗っていたロバが人間の言葉を話すという想像を絶する出来事を通してバラムの行為をストップさせられました。